

NEWSLETTER

不易流行

カウンスルNo.8 第29期会長 山口久美子

カウンスルNo.8第29期は、7クラブ68名でスタートしました。ほとんどのクラブが9人以下の少人数クラブです。しかし、少人数であるからこそ、工夫次第で学ぶチャンスが何回もあると前向きに捉えることができます。いろいろなお役に挑戦して経験して学んでいくことで、今まで気が付かなかった自分の未知なる部分を発見することができます。どうぞ、新しいお役との出会いをみつけて楽しみながら学んでください。



私は、今期のテーマを、「不易流行」としました。変えてはならない「不易」としては、ITC-Jの基本理念である「行うことで学ぶ」ために、会員の学びの環境を手助けします。変えていくべき「流行」は、カウンスルの運営面の改革を推し進めていきます。これらの2つのことに取り組んでまいります。

【会員の学びの環境の手助け】

1. 例会の充実や会員の学びの環境を整えるために、会員同士の積極的なクラブ間訪問を促す。
参加人数が多いと例会は活性化し、プログラムが充実していく。
2. 会員増強を図るために、今期、会員委員会が中心となって「リーフレット」や「お誘いカード」を作成した。活用方法は、p.8で会員委員長が紹介しているので、ぜひ、会員増強のために活用してほしい。

【カウンスルの運営面の改革】

1. 準備委員会を担当クラブ制ではなくて、全部のクラブに担当を割り当てて、担当をローテーションとする。このことによって、次回の役目を事前に知ることができる。
2. 会合の会場を公共の施設ではなく島根インで開催する。会場の設営等の準備の軽減を図ることができる。
3. ニュースレターの発行は年3回発行から2回と回数を減らす。
4. クラブ運営研修会は例年の8月には行わずに、会合終了後に全員参加の研修を開催する。

こうした改革を行うことで会員の負担軽減を図りました。環境は整いました。

さあ、より良い学びのためにスタートしましょう！

会員の学びの
環境の手助け

“工夫次第で学ぶチャンスが何回もある”

カウンスルの
運営面の改革



29期カウンスル会長・役員の皆様はこんな人

会長と役員の方々に3つの質問をしてみました。



山口久美子 カウンスル会長

1. 貴方の座右の銘は？

「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」上杉鷹山
※「どんなことでも強い意志を持って行えば必ず実現する、結果が得られないのは成し遂げる意思を持って行動しないからだ」という意味です。私の大好きな言葉です。

2. ITC-Jで成長したこと、またこれからITC-Jとどのような成長をしていきたいですか。

相手の良いところを褒めるといった評価の仕方を学んだことで、人づきあいが上手になったと思います。これからは、自分が学んで知り得た知識・技術を一人でも多くの方々にお伝えしていきたいです。

3. あなたの宝物は何ですか？

もちろん、ITC-Jの仲間たちです。

年代も地域も違って、普通だったら絶対に知り合えない方々とITC-Jという共通の話題のもとで、すぐにお友達になることができました。ITC-Jは素晴らしいです。

関原暁子 第一副会長

1. 貴方の座右の銘は？

考えるということは、答えを求めるということじゃないんだ。考えるということは、答えがないということを知って、人が問いそのものと化すということなんだ。 池田晶子

2. ITC-Jで成長したこと、またこれからITC-Jとどのような成長をしていきたいですか。

ビジネスでは組織運営を経験し、仕事や地域社会での活動に役立っています。プログラムでは、仲間の活動を見聞きして発想や多くの経験を積めることです。今後、激務にならぬよう、楽しみながら脳に刺激をもらうことです。

3. あなたの宝物は何ですか？

仕事で経験し、形にしたもの、人の繋がりが。日頃繋がっているお仲間と目的に向かっていく時間とその内容。若い時に歩いた山、スキーの醍醐味、スリルと喜び、自然の美しさは忘れがたいです。



林栄子 会計

1. 貴方の座右の銘は？

「みんなちがって みんないい」

2. ITC-Jで成長したこと、またこれからITC-Jとどのような成長をしていきたいですか。

お仲間が増え、パソコンが使えるようになったこと。老化の強力な杭にしたい。

3. あなたの宝物は何ですか？

その時々に出会った人たち。

永井眞澄 第二副会長

1. 貴方の座右の銘は？

「相手の身になって考える」です。若いころから変わらず、そのつもりでいます。

2. ITC-Jで成長したこと、またこれからITC-Jとどのような成長をしていきたいですか。

成長したこと：あがり症の私でしたが、ITC-Jの訓練で自信が付き、現在地域社会でも活用しています。

3. これからの成長：もう成長は無いので、ITC-Jのメンバーとの交流を楽しみたいです。

あなたの宝物は何ですか？

今は、物ではなく、大勢の若いお友達、茶道教室の生徒さんが宝物です。

浜上紀子 書記

1. 貴方の座右の銘は？

「今日好風」

～今日はいい風ですね、さわやかな風を味わいましょうか～

自然に流れてくる風を、ああ心地よい、と感じ取れる心をいつでも持っていたいです。実際は、焦ったり、落ち込んだり、イライラしたり、なかなか難しいのですが。

2. ITC-Jで成長したこと、またこれからITC-Jとどのような成長をしていきたいですか。

成長させてもらったこと：

「段取り八分、仕事二分」最近知った言葉です。準備を整えてから事に臨むことがとても大事、と教えていただきました。皆さまとチームワークで仕上げていく楽しさも知りました。

成長したいこと：

「自分の考えを伝える、ユーモアを持って」そもそも自分の考えが浅くてはっきりしていなくて、まずはそこから…。ユーモアって何…？ 先は遠いです。

3. あなたの宝物は何ですか？

「お内裏様とお雛様」

母が結婚するとき祖母が持たせたもの。私も家を出るとき母から譲り受けました。年に1度だけ会える優しいお顔に癒されています。

八尾和子 議会法規役員

1. 貴方の座右の銘は？

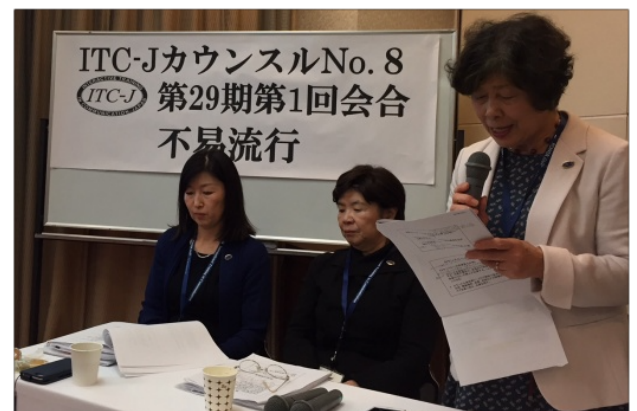
「みんなちがってみんないい」

2. ITC-Jで成長したこと、またこれからITC-Jとどのような成長をしていきたいですか。

色々なものに興味を持つようになったこと、多様性を尊重する姿勢を身に着けたこと。これからの成長はあまり期待できないので、マイナスにならないようにしたい。

3. あなたの宝物は何ですか？

友達



ビジネス

今期第1回会合は、2018年11月10日(土)12:45より、島根イン青山パインコートにおいて、山口久美子会長を議長として開会されました。会長挨拶前に11月1日にご逝去された元カウンスル会長・東京クラブチャーター会員の岩佐圭子さんへの黙祷がありました。

ITC-J会長加藤正枝様、ITC-J第一副会長豊川三千代様、ITC-J年次大会コ・コーディネーター原順子様を初め、他カウンスル、各地からのお客様をお迎えし、総出席者は53名でした。

公式訪問者からのインフォメーションは12項目あり、その一つにスピーチコンテストのルールの変更が述べられました。

前期決算報告書と監査報告書、及び今期予算案は採択され、指名委員選挙は総意で八尾和子さん（東京）、畑山はるみさん（葦崎）、小菅あけみさん（盛岡）が選出され、委員長は八尾和子さんに決まりました。ビジネスは全てスムーズに行われました。 報告者：饗場嗣祈子（横浜）

プログラム

柴田さよ子会員（盛岡）が、インスピレーションを行った後に、武井直子（東葛）プログラムリーダーのもと、I部 パネルディスカッションとII部 ワークショップが行われました。

I部 パネルディスカッション

「未来の年表」を読んで



堀江祐子モデレーターが河合雅司著『未来の年表』の概要を説明し、第1パネリスト藤原雅子会員、第2パネリスト小林

裕子会員、第3パネリスト櫻井をさみ会員がそれぞれの分野で発表、意見交換でパネルディスカッションを行いました。

第1パネリスト 藤原雅子

少子高齢化による労働力不足の対応策が練られているが、自分たちができることから始めたい。労働力不足の対応策として2つのことを提案したい。

(1) 高齢者の社会参加の活発化

経験豊富な高齢者の社会参加は労働力不足の緩和と高齢者の生きがいにもつながる。企業の定年の延長を働き盛りの人たちの活躍の機会を奪わない範囲で確保する。さらにボランティアとして社会、地域へ貢献する。

(2) 外国人労働者の雇用

勤労世代が減少する現状から外国人労働者の積極的雇用を考える。外国人への日本語教育支援、

地域社会への参加に一般人がかかわっていけば、労働力不足は緩和される。

このように日本の未来は私たちの意識改革、かわり方によって解決策を見出すことができる。

第2パネリスト 小林裕子

経済成長を求めるためには「量」から「質」への転換が不可避である。「大量生産・大量消費」ではなく、「少量生産・少量販売」へビジネスモデルを変えていく必要がある。そのための提案を3つの力で表現したい。

(1) 消費者の力

職人の生活基盤の確保のため、消費者が、国内の製品を買い求める、つまり、私達が日本の製品や技術のファンになる。

(2) 産地やメディアの力

職人の技術やその土地の歴史に裏打ちされたストーリーを発信することで、製品の「産地観光」をする人も増え、地域も活性化する。

(3) 業界団体と国の力

業界はより良いものが作られるよう技術や指導を強化し、生産者は基準を守り、ブランド化する。国は意欲ある企業や事業者に対して支援を行い、「知的財産」を保護する。

以上のように「こだわりの逸品」の製品づくりが、「豊かさを維持する」処方箋となる。

第3パネリスト 櫻井をさみ

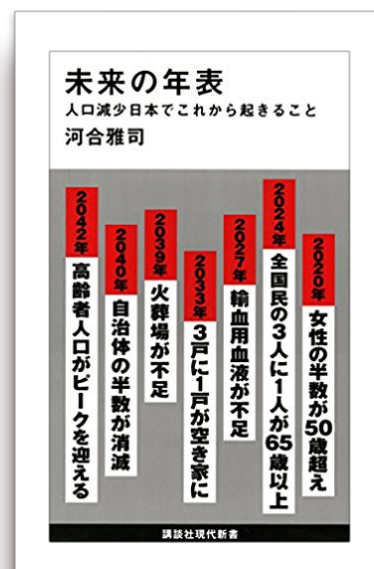
「脱・東京一極集中」の処方として、「中高年の地方移住推進」と「セカンド市民制度を創設」する要因を考え、日本版CCRCの意義3点について以下のように再確認したい。



- (1) 高齢者の希望の実現→迎える側のレポーターがどれだけそろえられているか。移住者の自分力向上にどれだけ寄与できるかが大きなカギになる。
- (2) 地方への人の流れの推進→地域にとっては活性化と人口増につながり、東京圏にとっても一極集中の緩和策につながるのではと考える。
- (3) 東京圏の高齢化問題への対応→地方と東京圏が施策を共有する事である。

参加者は全員事前に資料の『未来の年表』を読んでおくことが課題となっていたため、真剣な眼差しでパネリストの話に聞き入っていました。私たちの子どもや孫が幸せな未来を築くための方略を真面目に考えたひとときでした。

報告者 齊木ゆかり（横浜）



II部 ワークショップ

「スマホで自己評価」

横浜クラブの斉木ゆかり会員によるワークショップの流れは、隣席の会員とペアになり、1)二人が話す時間を平等にすること、2)WLが手を挙げたら作業をやめるというルールで、スピーチを録画後自己評価をした。このWSの特徴はより良いスピーチのために、自分の録画を注視することで自己評価力を学ぶ点にある。スピーチのテーマは「人口減少によるメリットはないのか。あるとすればどんな点か」であった。「気が付けば改善できる」ことを学んだ45分であった。

報告者 川井恵子（横浜）



クラブ運営研修会報告

初めての試みとして、今期はクラブ運営のための研修会が、第1回会合終了後に会合全員参加というかたちで行われました。関原暁子第一副会長の進行のもと、会長・第一副会長・第二副会長、書記、会計、議会法規役員、CLO、カウンスルへの派遣員、スピーチコンテスト委員会の順に各リーダーがパワーポイントを使用しての説明を行いました。従来のような部門別に研修を受けるのではなく、全部門の研修を参加者全員で受けました。しかも、お茶とお菓子をいただきながらという和やかな雰囲気の中で行われました。研修内容は、各部門の注意点・クラブ役員が知っておいた方がよいと思わ

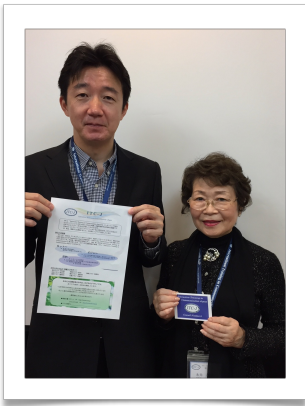


れること等が中心でした。言葉だけではなくパワーポイントでの視覚資料を用いての説明は効果的でした。今まで仕事の都合上参加できなかった会員にとって、クラブ運営の役割が理解できる充実した研修会となりました。

報告者：饗場嗣祈子（横浜）

リーフレットと「お誘いカード」の使い方について

会員委員会 永井眞澄・藤原真人



第二副会長の今期、会員委員会は英語クラブが無くなり、日本語クラブも少なくなって危機を感じ、カウンスルNo.8の会員を増やす責任感

を抱きました。そこで、早い時期に先ず「リーフレット」を作成いたしました。各クラブに配布済みですから、沢山コピーをして市役所や若い方が集まる所に置いて頂き、ちょっとした会合でITC-Jのことを知って頂く為の広報活動に積極的にご協力をお願い致します。

「お誘いカード」については私自身、市に関わる会や国際交流で出会った方々との名刺交換に必ず「お誘いカード」を役立てられる上、会員増強に力を入れられるので嬉しく思っています。会員の皆様！常に携帯して様々な場面で話のきっかけを作って「お誘いカード」をお渡しください。

岩佐圭子さんを偲ぶ

東京クラブ会長 田中眞紀子



東京クラブチャーターメンバー岩佐圭子さんが11月1日急逝されました。リージョン大会コーディネーター、カウンスル会長など長年ご尽力下さいました。祭壇にはお好きだったブルーボネットと白いお花が飾られ、清廉な岩佐さんらしいご葬儀でした。東京クラブから思いを込めた弔電をお送りいたしました。「突然の訃報に接し、一同言葉を失い深く悲しんでおります。ウイットに富んだスピーチ、ハイセンスなファッション、類い稀なリーダーシップは、私達の憧れでした。穏やかな笑顔で42年間クラブをお導きくださり感謝の念に堪えません。在りし日のお姿を偲びつつ、心よりご冥福をお祈り申し上げます。」合掌

執筆を快く引き受け、原稿をお寄せ下さった方々、ありがとうございました。初めての役で戸惑うなか委員達が役割を分担し、皆で協力し合い会報第1号が仕上がりました。皆様に楽しんで頂ければ幸いです。

編集後記：ウェブサイト・会報委員会
饗場嗣祈子委員長、水野玲子、斉木ゆかり
及び横浜クラブ会員